

報道関係各位

成人期AD/HD(18歳以上)当事者100名を対象とした調査/6都道府県11施設の発達障害者支援センターアンケート

成人期のAD/HD当事者 一日を通して様々な場面で困難抱え、生活に支障 ～7割以上が人間関係・就労・日常生活で「困っている」～

日本イーライリリー株式会社(本社:神戸市、社長:アルフォンゾ・G・ズルエッタ)は、18歳以上の注意欠陥/多動性障害(以下、AD/HD)当事者の現状や社会生活上の困難等を明らかにすることを目的に、全国で18歳以上の男女100名のAD/HD当事者を対象としたインターネット調査を実施致しました。同時に、6都道府県11施設の発達障害者支援センターへのアンケートも実施、成人期AD/HD(18歳以上)当事者を取り巻く現状が明らかとなりました。(調査時期:2011年)

成人の社会生活は子どもよりも複雑になり、責任も重くなるため、家庭や職場など、一日を通した様々な状況においてAD/HDの症状が与える影響も大きくなります。日本イーライリリーでは、注意欠陥/多動性障害(AD/HD)治療剤「ストラテラ[®](一般名アトモキセチン塩酸塩)」について、日本で初めて、成人期のAD/HDへの適応追加の承認を2012年8月に取得しました。これにより、今まで承認された治療薬がなかった、成人期(18歳以上の)AD/HD患者にも薬物治療という選択肢を提供できることになりました。しかしながら、AD/HDの症状は障害とは気づかれにくく、特に成人期AD/HDについての正しい理解や適切なサポートは未だ十分ではありません。

主な調査結果は以下の通りです。

■7割以上の成人期AD/HD当事者が、様々な場面で困難を抱えていると回答

「日常生活」75.0%、「人間関係」83.0%、「就労」79.0%が困っている(「非常に困る」、「困る」、「少し困る」の合計)と回答【グラフ①】。「日常生活」において最も困っていることとしては、「感情のコントロールができない」32.0%【グラフ②】。「人間関係」においては「周囲から孤立してしまう」41.0%【グラフ③】、「就労」においては「仕事に就いても、業務を遂行することが困難」35.4%【グラフ④】と回答。

■就労時、最も困る症状は、AD/HD特有の「不注意」

就労時、AD/HDの症状が原因で困ることとして最も多かったのは、「同じミスを何度も繰り返す」72.7%、続いて「複数の業務を同時進行することができない」59.7%、「頼まれた業務を忘れてしまう」55.8%【グラフ⑤】。

■周囲の理解、浸透していないことが示唆

自己肯定感が低い傾向がみられ、特に、「周囲の人から認められ、理解されている」「自分らしく生き生きと日々を過ごせている」と回答した成人期AD/HD当事者は、わずか12.0%であることが判明、周囲の理解が浸透していないことが示唆されました【グラフ⑥】。

■成人期AD/HD当事者からの相談で最も多いのは就労に関する相談

発達障害者支援センターに成人期AD/HD当事者から寄せられる相談で最も多い内容は、「就労」54.5%【グラフ⑦】。「就労」に関する相談内容で最も多いのは「仕事が長続きしない」90.9%【グラフ⑧】、「日常生活」においては「家事ができない」81.8%【グラフ⑨】、「人間関係」においては、「家族や同僚、友人との人間関係を築くことができない」63.6%【グラフ⑩】でした。

■東京都立小児総合医療センター 顧問 市川 宏伸 先生 コメント

AD/HDの症状は、「不注意」は集中して話が聞けない、金銭の管理ができないなど、「多動性」はよくしゃべる、体の一部を動かすなど、「衝動性」は思いつきをすぐ言動にうつすなど、一日を通してさまざまな形であらわれます。これらの問題の程度が非常に強い、あるいは頻度が並外れて高いなどで生活上大きな支障があると判断される場合に、AD/HDと診断されます。AD/HDにより生じる様々な支障を減らし、当事者がその人らしい生活をおくるためにも、成人AD/HD当事者への適切な治療が非常に大切です。

■こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中康雄 先生 コメント

成人期のAD/HDに関する正しい理解や適切な支援が未だ十分に浸透していないことがうかがえます。自分を責めたり、本人が怠けているといった非難や誤解にさらされたり、良好な人間関係構築や就労などの社会生活において困難に直面している当事者が多数存在しています。大人になって初めて診断を受け開始される治療には、環境調整などの心理社会的治療と薬物療法があります。本人や周りの人が、その人の発達特性を理解し、適切な診断・治療を受けて、生活上の悪循環を断ち切り、状況を改善していくためにも成人期特有の生きづらさへの支援が必要です。

■NPO法人えじそんくらぶ 代表 高山 恵子さん コメント

多くの当事者が困難を抱えているという調査結果にあらわれているとおり、AD/HDの症状は、昼夜を問わずあらわれ、仕事のみでなく、家事など日常・社会生活に支障をきたしています。周囲から見れば、「努力が足りない」、「反省できない」ようにみえるかもしれませんが、本人は本当に精一杯がんばり、人一倍の努力をして日常を切り抜けているのです。AD/HDのある人が自分の特性を知り、得意なことを活かして社会貢献できるように、サポートして頂きたいと思います。AD/HDを「治す」のではなく、「もともと持っている特性を適切なサポートを受けて、活かし、豊かに生きる」。そんなイメージで、AD/HDとともに向き合っていく方法を見つけしていくことが大切だと思います。

以上

成人期AD/HD当事者対象調査および発達障害者支援センターアンケートについて

本リリースは、2011年に実施した調査結果の第2弾の発表となります。第1弾は、2011年11月2日にプレスリリースにて発表いたしました。第1弾のプレスリリースは、以下の日本イーライリリー株式会社のWEBサイトにてご覧いただけます。

https://www.lilly.co.jp/pressrelease/2011/news_2011_087.aspx

成人期AD/HDについて

小児期にAD/HDと診断された患者のうち約50～70%は成人期(18歳以降)にまで症状が持続することが示唆されており^{*1}、成人AD/HDの有病率は世界全体では平均3.4%^{*2}と報告されています。AD/HDと診断される成人では、気分障害、不安障害、強迫性障害、解離性障害、物質性障害など多岐にわたる障害が重なること^{*3}、また、落第、失業、転職、離婚などがみられるという報告もあります^{*4}。成人期AD/HDの治療は、患者との面接や、家庭・職場との連携、薬物療法など総合的なプログラムが重要とされています。詳しくは<http://www.ADHD.co.jp>をご参照下さい。

^{*1} Civic Research Institute: 4-1- 4-12, 2002, ^{*2} Br J Psychiatry 190:402-409,2007, ^{*3} 精神科治療学 19(4):415-424,2004, ^{*4}精神科治療学 19(5): 563-569,2004.

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、革新的な医薬品の輸入・開発・製造・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠陥・多動性障害(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症をはじめとする、ニューロサイエンス領域、がん領域、糖尿病領域、成長障害領域や筋骨格領域における治療法を提供しています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

【本件に関するお問い合わせ先】

日本イーライリリー株式会社 渉外企画部 小嶋美子 Tel.078-242-9271/Fax.078-242-9169

(このプレスリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働省労働記者会、厚生労働省日比谷クラブ、大阪化学工業記者クラブ、道修町薬業記者クラブ、神戸経済記者クラブへ配付しております)

18歳以上のAD/HD 当事者対象調査概要

目的： 18歳以上のAD/HD当事者の実態・抱えている課題を明らかにするため
 調査主体： 日本イーライリリー株式会社
 監修： 東京都立小児総合医療センター 顧問 市川 宏伸 先生
 ころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄 先生
 NPO法人 えじそんくらぶ
 調査地域： 全国
 調査方法： インターネット調査
 調査対象： 18歳以上、病院・医院などを受診し、AD/HDと診断された経験を持つ当事者 男女100名
 調査期間： 2011年7月15日～2011年7月28日

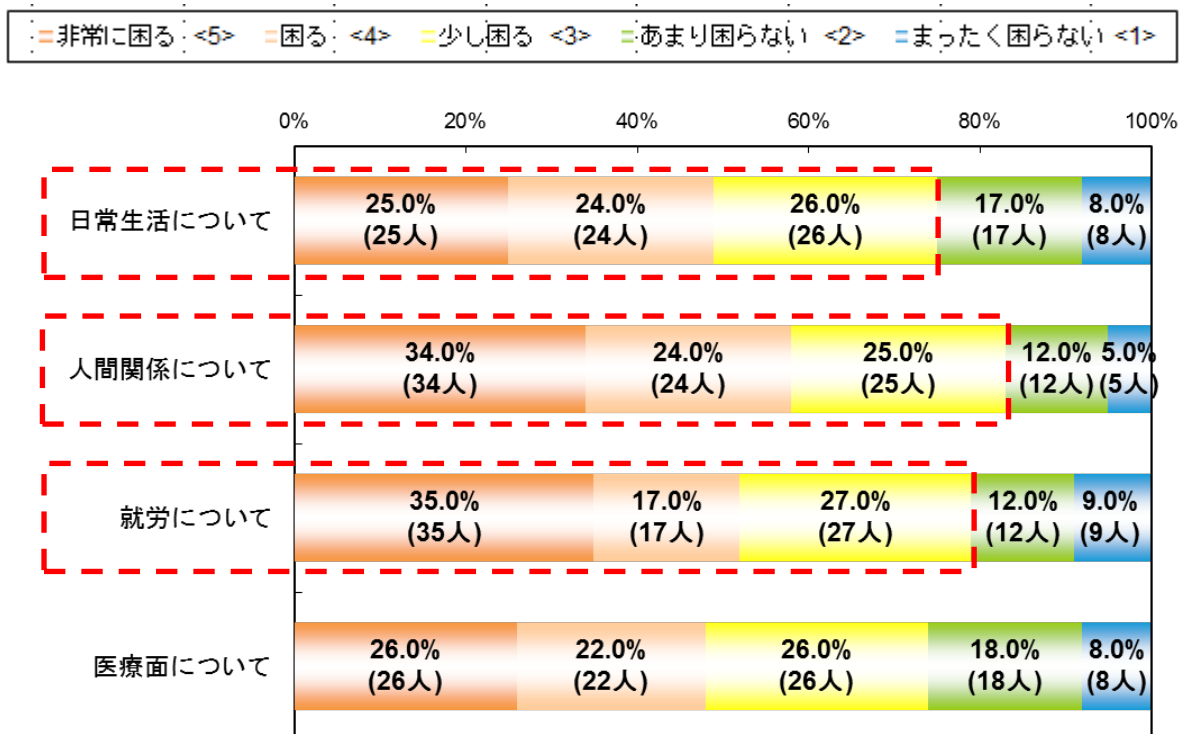
※調査結果は小数点以下第2位を四捨五入しました。

調査結果

グラフ① 7割以上の成人期AD/HD当事者が、様々な場面で困難を抱えている。

「社会生活・日常生活において、どの程度困っているか」を尋ねたところ、「日常生活」については75.0%（「非常に困る」25.0%、「困る」24.0%、「少し困る」26.0%）、「人間関係」については83.0%（「非常に困る」34.0%、「困る」24.0%、「少し困る」25.0%）、「就労」については79.0%（「非常に困る」35.0%、「困る」17.0%、「少し困る」27.0%）が困っていると回答しました。

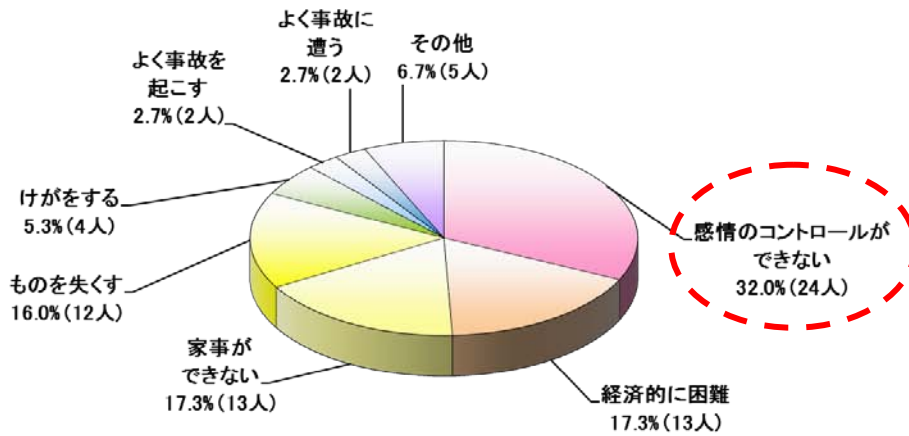
社会・日常生活における困難（単一回答）（n=100）



グラフ② 「日常生活」で最も困っていることは、「感情のコントロールができない」。

成人期 AD/HD 当事者の32.0%が「感情のコントロールができない」ことに「日常生活」で最も困っていると回答しました。「感情のコントロール」とは、“やらなければならないとわかっていることを先延ばしてしまう”といった代表的な特徴も含まれていると考えられます。

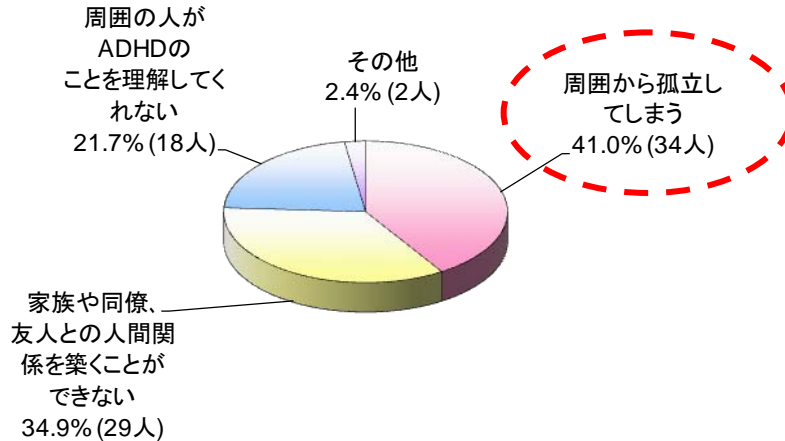
日常生活において最も困っていること（単一回答）（n=75:日常生活について困っている当事者）



グラフ③ 「人間関係」で最も困っていることは、「周囲から孤立してしまう」。

成人期 AD/HD 当事者が「人間関係」において最も困っていることとして、41.0%が「周囲から孤立してしまう」、続いて34.9%が「家族や同僚、友人との人間関係を築くことができない」と回答しました。

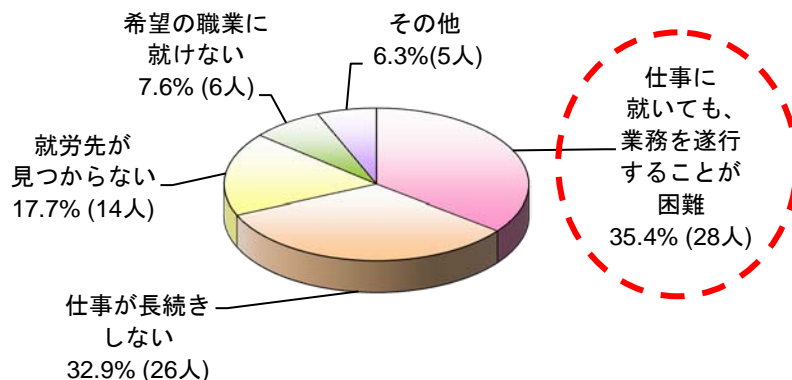
人間関係において最も困っていること（単一回答）（n=83:人間関係について困っている当事者）



グラフ④ 「就労面」で最も困っていることは、「仕事に就いても、業務を遂行することが困難」。

成人期 AD/HD 当事者が、就労面で最も困っていることは、「仕事に就いても、業務を遂行することが困難」が35.4%、続いて「仕事が長続きしない」が32.9%でした。

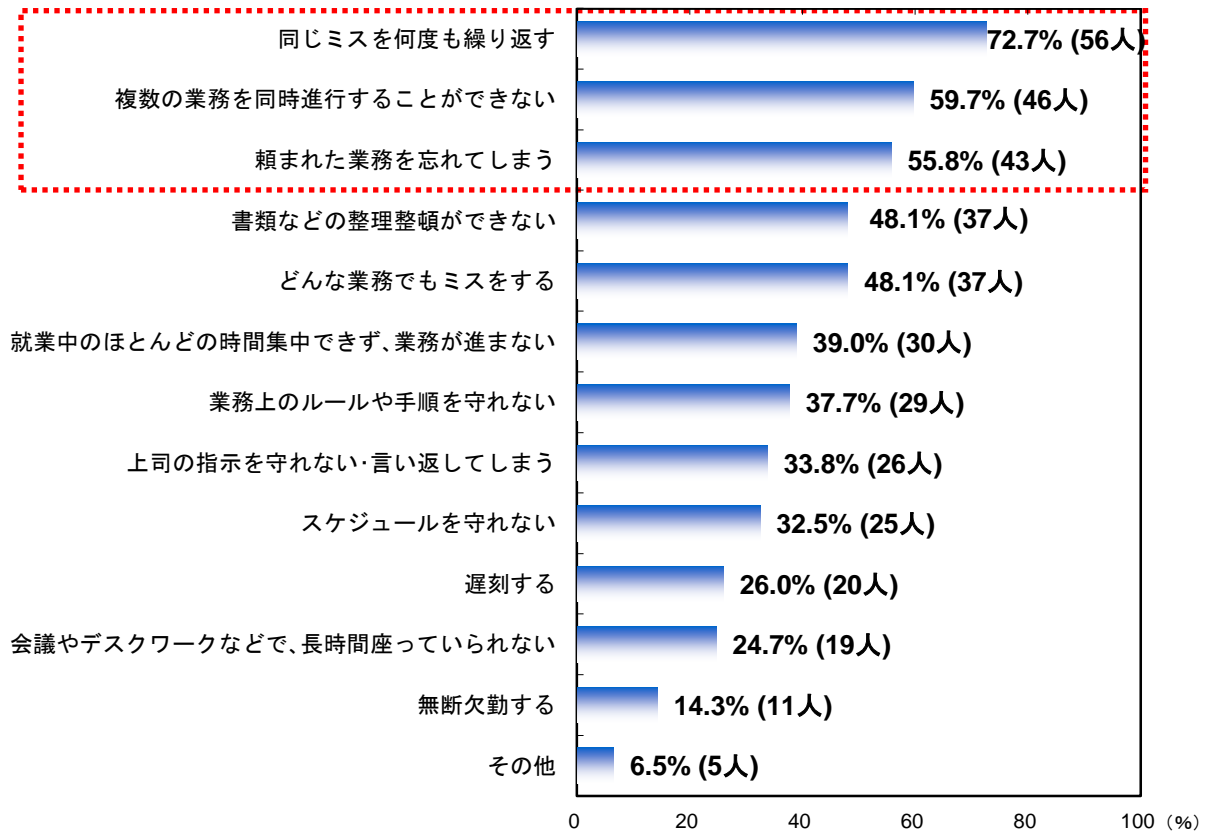
就労面において最も困っていること（単一回答）（n=79:就労面について困っている当事者）



グラフ⑤ 就労時、最も困る症状は、AD/HD 特有の「不注意」。

AD/HD の症状が原因で、就労時に困ったこととして、72.7%が「同じミスを何度も繰り返す」、続いて「複数の業務を同時進行することができない」59.7%、「頼まれた業務を忘れてしまう」55.8%と回答しました。

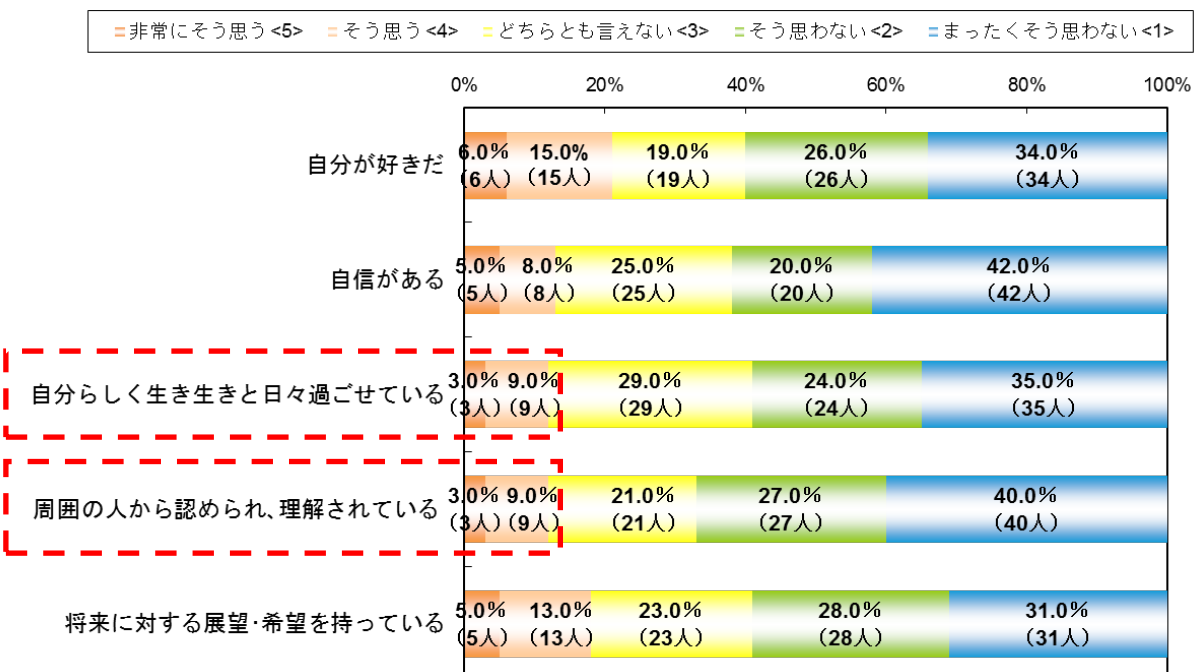
就労時 AD/HD の症状で困ったこと（複数回答）（n=77: 就労時困った経験のある当事者）



グラフ⑥ 周囲の理解、浸透していないことが示唆。

自己肯定感が低い傾向がみられ、特に、「周囲の人から認められ、理解されている」「自分らしく生き生きと日々を過ごせている」と思うと回答した成人期 AD/HD 当事者は、わずか12.0%（「非常にそう思う」3.0%、「そう思う」9.0%）でした。

自分自身に対する気持ち・感情（単一回答）（n=100）



発達障害者支援センターアンケート実施概要

- 目的： 発達障害者支援センターでの対応状況についてアンケートを実施することで、AD/HD当事者・ご家族の日常生活・社会生活における困難や課題についてより良く理解させていただくため
- 調査主体： 日本イーライリリー株式会社
- 監修： 東京都立小児総合医療センター 顧問 市川 宏伸 先生
こころとそだちのクリニック むすびめ 院長 田中 康雄 先生
NPO法人 えじそんくらぶ
- 調査方法： 郵送にてアンケート票を送付
- 調査対象： 6都道府県（北海道、埼玉県、東京都、愛知県、大阪府、福岡県）の発達障害者支援センター
11 施設
- 調査期間： 2011年7月25日（月）～8月18日（木）

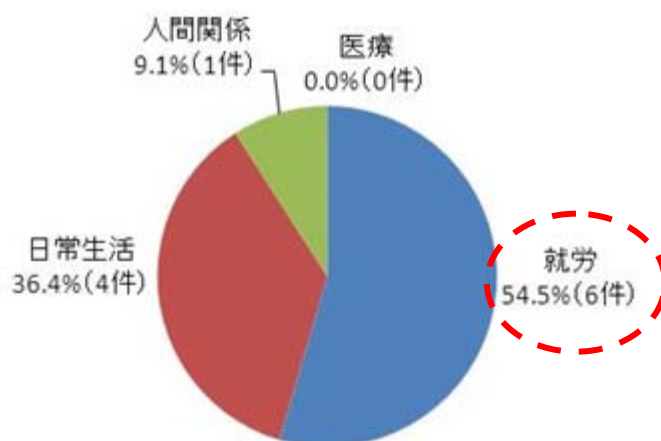
※調査結果は小数点以下第2位を四捨五入しました。

調査結果

グラフ⑦ 成人期 AD/HD 当事者からの相談で最も多いのは就労に関する相談。

成人期 AD/HD 当事者から寄せられる相談で最も多い内容を尋ねたところ、54.5%が就労と回答しました。

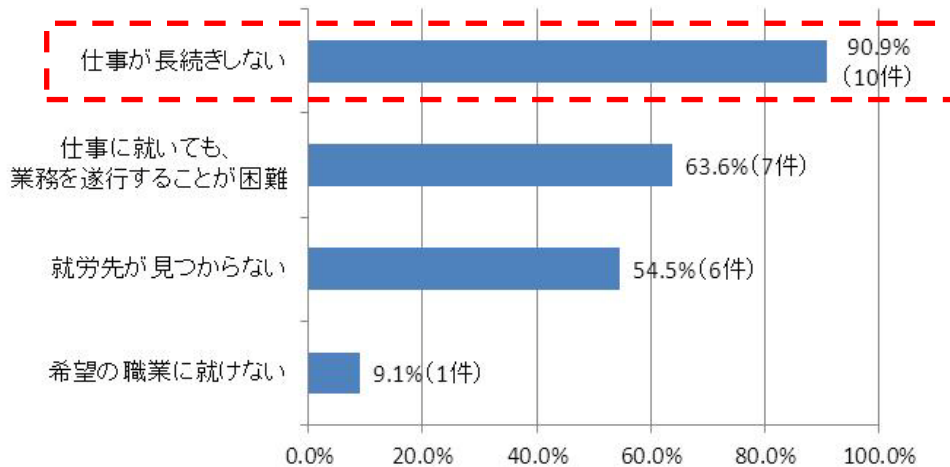
成人期 AD/HD 当事者からの最も多い相談内容（単一回答）（n=11）



グラフ⑧ 「就労面」での最も多い相談は、「仕事が長続きしない」。

成人期 AD/HD 当事者から寄せられる「就労面」に関する相談で、最も多かったのは「仕事が長続きしない」90.9%でした。**※本結果(グラフ⑧)は、2011年11月プレスリリースにて発表しております。**

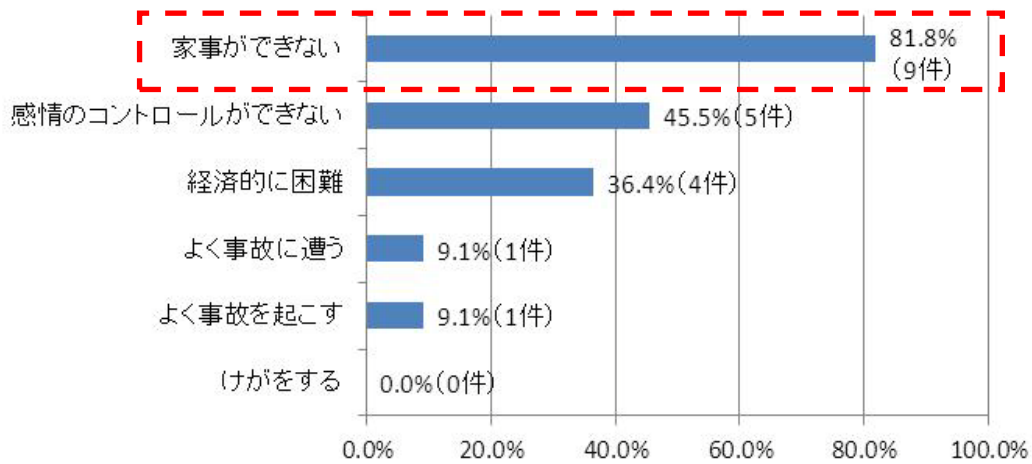
就労面における成人期 AD/HD 当事者からの相談内容 (複数回答) (n=11)



グラフ⑨ 「日常生活」での最も多い相談は、「家事ができない」。

成人期 AD/HD 当事者から寄せられる「日常生活」に関する相談で、最も多かったのは「家事ができない」が81.8%でした。

日常生活における成人期 AD/HD 当事者からの相談内容 (複数回答) (n=11)



グラフ⑩ 「人間関係」における最も多い相談は、「家族や同僚、友人との人間関係を築くことができない」。

成人期 AD/HD 当事者から寄せられる「人間関係」に関する相談で最も多かったのは、「家族や同僚、友人との人間関係を築くことができない」63.6%でした。

人間関係における成人期 AD/HD 当事者からの相談内容 (複数回答) (n=11)

